

茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果

【総括表】

施策名	総合評価			ページ 番号	取組名	取組評価		
	28	29	30			28	29	30
(1) すべての子どもの育ちを支援する	B	B	B	2	①子どもの健やかな育ちを等しく支援※	b	b	b
					②幼児教育と保育の質と量の充実※	c	b	b
(2) 「生きる力」を育む教育を推進する	A	B	A	5	①「確かな学力」の充実	b	b	b
					②「豊かな心」の醸成	b	a	a
					③「健やかな体」の育成	a	b	b
					④学校支援体制の充実	a	a	a
(3) 魅力ある教育環境づくりを推進する	B	B	B	8	①学校施設の計画的な整備・充実	b	b	b
					②学校・家庭・地域の連携の推進	b	b	b
(4) 青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する	B	B	B	10	①青少年健全育成の推進	b	b	b
					②青少年の体験活動の充実	b	b	b
(5) 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	B	B	B	14	①成人教育の推進	a	b	b
					②公民館活動の推進	b	b	b
					③図書館サービスの充実	b	b	b
(6) 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	B	B	B	18	①歴史遺産の保存・継承	b	b	b

※市長部局の事業を含む取組

【評価の見方】

総合評価

- A 施策の方向性に沿って順調に進行している。
すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がaである。
- B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。
①すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がbである。
②一部の取組の評価がcであるが、5割以上はaまたはbである。
- C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。
A・B・D以外
- D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
7割以上の取組の評価がdである

取組評価

- a 順調に進行
b おおむね順調に進行
c 進行にやや遅れ
d 進行に大幅な遅れ

第5次茨木市総合計画
平成30年度施策評価結果
(茨木市教育大綱部分抜粋)



※茨木市教育大綱に位置付けていない施策及び取組は
網掛けで表示しています。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てできる環境を整えます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	こども育成部	部 長	岡 和人
		施策主担当課	こども育成部	こども政策課	—
		施策関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	2-1-1	★子どもの健やかな育ちを等しく支援		
		2-1-2	★子育て支援サービスの提供		
		2-1-3	★幼児教育と保育の質と量の充実		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題		
	児童虐待対応については、平成29年度にこども相談係の設置や職員を増員するなど体制強化を図るとともに、マニュアルを改訂し関係機関との連携強化等に努めました。また、児童発達支援事業を再編し、相談機能等を充実しました。 こども医療費助成は、平成28年度に所得制限を撤廃するとともに、平成30年4月から対象年齢を中学校卒業年度末まで拡充しました。また、ひとり親の支援施策として、平成28年度からひとり親のための無料法律相談を実施するなど相談窓口の強化を図るとともに、自立支援給付金や親の就業支援の充実に努めました。さらに、保育料や子育て短期支援事業などの負担額の算出において、みなし寡婦(夫)控除を適用しました。 就学援助制度は、平成27年度に中学校給食に対する援助、平成29及び30年度に入学にかかる支給額を増額し、奨学金とあわせて平成29年度に支給時期の早期化を行いました。 子育て家庭の個別ニーズに応じた情報提供や相談助言を行う利用者支援事業は、当初目標5か所としていましたが、子育て支援総合センター及び公立保育所、こども健康センターの7か所で開催内容の充実を図るとともに、子育て世代包括支援センター事業については、保健医療課と引き続き連携会議を行い、妊娠からの切れ目のない支援に努めました。 子育て短期支援事業(ショートステイ)は、平成27年度に受入先を拡充、平成28年度に学校への送迎を実施するなど内容の充実を図った結果、当初目標の利用日数84日を上回る136日となり一定の成果を上げています。 保育の量の拡充は、平成28年度より既存私立保育所等の建替定員増事業、小規模保育施設や私立保育所の新設等により保育の受入体制の確保に努めた結果、平成27年度186人の待機児童が平成30年度35人まで減少し、一定の成果があがっていますが解消には至っていません。今後、幼児教育の無償化(2019.10~予定)の保育需要への影響を加味して見直した「茨木市待機児童解消保育所等整備計画」に基づいて、さらなる整備を進めています。 以上により、安心して子育てできる環境等の整備を一定、図ることができたと判断し「B」評価とします。		課題①	ひとり親が就業するなどの自立につながる施策や、既存施策の浸透が十分でないことから、関係機関との連携強化により就労支援の充実を図るほか、広報誌や窓口等において既存施策の更なる周知を行う必要があります。	
			課題②	児童虐待に対する関心の高まりから通告数が増加し、迅速な調査及び対応に支障をきたしており、体制の強化が必要です。	
			課題③	妊娠期からの切れ目のない支援を提供するには、妊産婦・乳幼児等の状況を継続かつ包括的に把握する必要があります。	
			課題④	新たな施設整備に伴い、保育士の確保が困難になることから、保育士確保に向けた取組を実施する必要があります。	
			課題⑤	「英語で遊ぼうディ」は、子どもたちの外国語に対する興味関心を高めることにつながっており、継続して内容を充実させる必要があります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する		

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取 組	2-1-1 ★子どもの健やかな育ちを等しく支援						
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井 芳樹	
3	関係課	子育て支援課、学務課						
4	目 標 (前期基本計画より)	社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとするさまざまな状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。						
5	該当する 重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる		内 容	修学意欲のある若者をサポートする取組			
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価		評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b		平成30年4月から、こども医療費助成の対象年齢を中学校卒業年度末まで拡充しました。ひとり親への就労支援として、児童扶養手当の現況届受付会場にハローワークによる就労相談窓口を設置しました。また、子育て短期支援事業などの負担額の算出において、みなし寡婦(夫)控除を適用しました。 こんにちは赤ちゃん事業は目標値未達ですが、関係機関と連携し対象乳児すべてを現認できました。また、虐待対応マニュアルを改訂し、関係機関との連携強化等に努めたほか、児童発達支援事業を再編し、相談機能等を充実しました。就学援助入学準備金は、国や府の取組を踏まえ支給額を増額しました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度	
		就業等自立につながったひとり親家庭の割合		%	↗	80	75	80(各年度)
		こんにちは赤ちゃん事業の訪問完了率		%	↗	93	94	97(各年度)

1	取 組	2-1-2 ★子育て支援サービスの提供								
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	中井 誠			
3	関係課									
4	目 標 (前期基本計画より)	個々のニーズに応じた支援サービスが活用され、安心して子育てができるようになっていきます。								
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる		内 容	子育て支援策の充実、適切な支援情報の提供					
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価		評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b		保健医療課とともに実施している子育て世代包括支援センター事業においては、引き続き連携会議を行い、妊娠期からの切れ目のない支援に努めるとともに、新たに「マタニティ広場」を開催し妊婦が交流を図る場を設けました。また、4か月児健康診査に出向き相談及び一時保育の登録を受け付けるなど、市民の利便性の向上を図りました。 産前・産後ホームヘルパー派遣事業では、委託料の単価見直しなどにより、受託事業者の増加につながり、増大する市民ニーズに対応することができました。 公立保育所の利用者支援事業(基本型)と定期的に会議を持ち連携を図る中で、基本型のあり方について共通認識することができました。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度			
		利用者支援事業の実施か所数		か所数	↗	7	7	7(R1)		
		一時保育スマイルの利用稼働率		%	↗	70	72	85(R1)		
子育て短期支援事業の利用日数		日	↗	108	136	84(R1)				

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する

★:重点プラン該当取組

1	取 組	2-1-3	★幼児教育と保育の質と量の充実					
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	保育幼稚園総務課	課長名	山 寄 剛一	
3	関係課	保育幼稚園事業課、学校教育推進課						
4	目 標 (前期基本計画より)	待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる		内 容	待機児童の解消、 保護者のニーズに応じた幼児教育・保育の提供			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価		評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b		保育の量の拡充は、既存私立保育所等の建替定員増事業のほか、私立保育所の新設により保育の受入体制の確保に努めましたが、待機児童解消には至っていません。しかし、2019年10月から予定されている幼児教育の無償化の保育需要への影響を加味して見直した「茨木市待機児童解消保育所等整備計画」に基づいて、さらなる整備を進めています。保育の質の向上は、認可外を含む市内保育施設と連携した「保育の手引き」の作成に向けての取り組みの検討を開始しました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ		茨木っ子グローイングアッププランに基づく保幼小中連携教育の推進により保育所・幼稚園、小学校との連携が深まりました。「英語で遊ぼうデイ」は、各幼稚園・保育園において年3回実施し、さらに外国語に親しむことができ、幼児教育と保育の質の充実につながりました。				
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度	
		待機児童者数		人	↘	58	35	0(R2)

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成し、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通じた信頼される学校づくり」を進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	学校教育部	部 長	加藤 拓
		施策主担当課	学校教育部	学校教育推進課	—
		施策関係課	学務課、教職員課、教育センター		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	2-3-1	★「確かな学力」の充実		
		2-3-2	★「豊かな心」の醸成		
		2-3-3	★「健やかな体」の育成		
		2-3-4	学校支援体制の充実		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	A	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題		
	全国学力・学習状況調査の平均正答率について、小学校では、この11年間ずっと全国平均を上回っており、中学校では、平成22年度からは全国平均を上回っていることから、本市の児童・生徒の学力は、継続して良好な状況にあります。また、外国語教育についても英語シャワーデーやNETの配置により、英語でのコミュニケーション活動を充実させており、「確かな学力」の充実については順調に推進できているものと考えております。 各小・中学校において、子ども理解に努め、児童・生徒の不安や悩みを受け止めて指導したことや道徳教育の充実を進めてきたことにより、「自分力」の指標は継続して良好な状況を維持することができており、「豊かな心」を醸成する取組は一定の成果を上げております。 「健やかな体」の育成につきましては、体力向上プロジェクトや立命館プログラムの導入による体育の授業改善や、6年間のスポーツテスト結果がわかるようになったことなどが、児童生徒の運動に対する意欲が高い状況につながっています。学校給食への地元食材の使用については、米、みそについては、現状維持であり、野菜については、少しでもありますが使用量が増加しました。 「学校支援体制の充実」につきましては、新学習指導要領を踏まえた研修や学校訪問やケース会議の開催など、教員育成や学校の取組支援を行いました。また、出退勤管理システム、人事記録の電子化推進により、学校の業務改善の推進を図りました。 以上から、施策の方向性に沿って順調に進行していると判断し、総合評価は「A」とします。		課題①	茨木っ子グローイングアッププランの取組により、本市の児童・生徒の学力は良好な状態を保っておりますが、プラン最終年度を迎え、新プラン策定に向けた検討を進めていきます。	
			課題②	外国語教育については、中学校において新学習指導要領に基づく4技能をバランスよく育成する授業が求められており、教員の授業力向上を進めていきます。	
			課題③	豊かな心を醸成する取組を進めるとともに、いじめや不登校、暴力行為などに対する早期発見・早期対応、未然防止の取組を充実させていきます。	
			課題④	健やかな体の育成は引き続き必要であり、子どもの運動や健康への意識を高め、体力向上や食育・健康教育の取組を推進していきます。	
			課題⑤	新学習指導要領の全面実施を控え、より実践的で質の高い研修を実施するとともに、引き続き、学校業務改善を推進していきます。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する		

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取 組	2-3-1	★「確かな学力」の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	谷 周平
3	関係課	教育センター					
4	目 標 (前期基本計画より)	小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる	内 容	「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	全国学力・学習状況調査の平均正答率について、小学校では、平成25年度から低下傾向が続いていますが、この11年間ずっと全国平均を上回っています。中学校では、学力向上プラン開始当初は全国平均を下回っていましたが、平成22年度からは全国平均を上回っています。本市の児童・生徒の学力は、継続して良好な状況にあり、「確かな学力」を育成する学校づくりの推進の成果と考えられます。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	外国語教育については、英語シャワー・デイを実施し、NETとの英語でのやり取りを体験することで英語でのコミュニケーション活動を充実させることができました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(小学校)	全国を1	→	1.025	1.020	1.04(プラン目標)
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(中学校)	全国を1	→	1.019	1.046	1.02(プラン目標)

1	取 組	2-3-2	★「豊かな心」の醸成						
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	谷 周平		
3	関係課								
4	目 標 (前期基本計画より)	一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができます。							
5	該当する 重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる	内 容	「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組					
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価		評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a		各小・中学校において、子ども理解に努め、児童・生徒の不安や悩みを受け止めて指導したことや道徳教育の充実を進めてきたことにより、「自分力」の指標は継続して良好な状況を維持することができました。また、いじめや不登校・暴力行為等についても対応を進めてきました。引き続き、道徳教育・人権教育など「豊かな心」を醸成する取組を充実させていく必要があります。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
							H29年度	H30年度	
		自分力(小学校)			点	→	8.55	8.78	7.0(プラン目標)
		自分力(中学校)			点	→	7.85	8.24	7.0(プラン目標)

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち
2	施策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する

★：重点プラン該当取組

1	取 組	2-3-3	★「健やかな体」の育成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名	谷 周平
3	関係課	学務課					
4	目 標 (前期基本計画より)	小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	①若い世代に選ばれ、高齢者がいきいきと活動できるまちをつくる	内容	「知・徳・体」の調和のとれた子どもの育成、保・幼・小・中連携の充実、学校の特色や地域性をいかした取組			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	体力向上プロジェクトや立命館プログラムの導入による体育の授業改善や、小学4年時から中学3年時までの6年間のスポーツテスト結果がわかるようになったことなどが、児童生徒の運動に対する意欲が高い状況につながっています。 学校給食への地元食材の使用については、米、みそについては、現状維持です。野菜については、農とみどり推進課や関係団体等と協議し、収穫時期に合わせて学校給食に取り入れられるよう、計画的に献立を考えるなどで、供給品目、供給量の確保ができ、少しであるが使用量が増加しました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		運動(スポーツ)をすることが好きと答える割合(小5・中2男女平均)	%	→	86.0	85.7	86.6(R1)

1	取 組	2-3-4 学校支援体制の充実					
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	教育センター	課長名	足立 英幸
3	関係課	教職員課					
4	目 標 (前期基本計画より)	教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	前年度に引き続き、新学習指導要領を踏まえて、主体的・対話的で深い学びや、道徳教育・英語教育・プログラミング教育などの教育課題に対応した研修を実施しました。 相談ケース報告の簡略化による事務業務の時間短縮を図ることで、多岐にわたる相談ニーズに対応しました。 定期的に学校訪問を行い、不登校の実態を把握するとともに、必要に応じて個別のケース会議を行い、不登校児童・生徒及び保護者の支援を行いました。 出退勤管理システムにより把握した勤務時間を見える化し現状把握に役立てると共に、人事記録の電子化に向けたスケジュールを策定し、システム構築を進めるなど、業務改善の推進を図りました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		教職員1人あたりの研修参加回数	回	↗	3	3	3(R1)
		相談員1人あたりの相談件数 (面接・電話・言語・不登校・発達相談)	件／人	→	89	88	90(R1)
不登校児童・生徒支援室への入級希望者数	件	→	37	35	40(R1)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	教育総務部	部 長	乾 克文
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課	学童保育課、施設課、学校教育推進課、教育センター		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実		
		2-4-2	★学校・家庭・地域の連携の推進		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
評価理由（H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）			H30年度末現在の施策の主な課題	
2	快適な教育環境を整えるため、国の補助金等を効果的に活用し、外壁塗装・防水工事などの大規模改修をはじめ、エアコンやエレベーターの設置など、学校施設・設備の充実を図ることができました。 また、ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくりを推進することができ、多くの実践事例を得ることができました。授業でICT機器を活用する教員の割合は引き続き高い状況となっています。 放課後子ども教室については、実施延べ日数はこれまで年々増加傾向にあり、地震や台風等の災害の影響によりH30年度はH29年度比で減少したものの、地域の方々の協力、大学生ボランティアの派遣、あるいは市内事業者との企業連携等により、多様な体験活動の機会を提供しました。 学童保育室については、入室申請者数が毎年増加していることから、建替え、改修等で受入可能人数を大幅に増やした結果、平成27年度に比べ待機児童数は減少しています。また、平成30年9月に利用料の改定を実施しました。 家庭教育学級については、親同士がつながりともに学ぶ場となっていますが、開設学級数及び延べ参加者数は減少傾向にあります。親まなびおでかけ講座については、受講者層の拡大につなげるため、大学との連携や出前講座としての周知等に努めました。 見守り活動については、子ども安全見守り隊の登録も増加し、各校区で着実に実施していただきました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	施設の整備には、工事価格も上昇しており多額の経費を要するが、国庫補助金を獲得するとともに経費の平準化を図りながら計画的に進める必要があります。
			課題②	タブレットや無線LANなどを有効活用できるように、引き続き研修等により、教員の授業力向上に努める必要があります。
			課題③	放課後子ども教室については、校区によってはスタッフ不足等運営上の課題があるため、引き続きボランティアの募集、派遣に努める必要があります。家庭教育学級生数は年々減少しており、引き続き保護者のニーズに応じた取り組みとなるよう検討が必要です。また親まなびおでかけ講座については、引き続き受講者層の拡大が課題としてあげられます。
			課題④	学童保育室の改修等で受入可能人数を増やしているものの、入室申請者数が毎年大幅に増加しており、令和元年度も4月当初から待機児童が発生します。また、学年拡大等の要望があります。
			課題⑤	子ども見守り隊の登録者数は増えていますが、幅広い年代の方に入っていただくことも必要です。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する		

3 施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取 組	2-4-1 学校施設の計画的な整備・充実							
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	施設課	課長名	中井教純		
3	関係課	教育センター							
4	目 標 (前期基本計画より)	学校施設・設備等を計画的に更新することにより、児童・生徒が快適で効果的に学習できる教育環境を整備する。							
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容					
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価		評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b		快適な教育環境を整えるため、国の補助金等を効果的に活用し、外壁塗装・防水工事などの大規模改修をはじめ、エアコンやエレベーターの設置など、施設・設備の充実を図ることができました。 また、ICT機器を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくりを推進することができ、多くの実践事例を得ることができました。授業でICT機器を活用する教員の割合は引き続き高い状況となっています。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							H29年度	H30年度	
		小・中学校の特別教室等のエアコンの設置率			%	↗	86	100	100 (R2)
		授業でICT機器を活用する教員の率			%	↗	89	86	95 (R1)

1	取 組	2-4-2	★学校・家庭・地域の連携の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本栄子
3	関係課	学童保育課、学校教育推進課					
4	目 標 (前期基本計画より)	学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	③安全・安心に暮らせるまちをつくる	内容	子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	放課後子ども教室については、実施延べ日数はこれまで年々増加傾向にあり、地震や台風等の災害の影響によりH30年度はH29年度比で減少したものの、地域の方々の協力、大学生ボランティアの派遣、あるいは市内事業者との企業連携等により、多様な体験活動の機会を提供しました。 学童保育室については、入室申請者数が毎年増加していることから、建替え、改修等で受入可能人数を大幅に増やした結果、平成27年度に比べ待機児童数は減少しています。また、平成30年9月に利用料の改定を実施しました。 家庭教育学級については、親同士がつながりともに学ぶ場となっていますが、開設学級数及び延べ参加者数は減少傾向にあります。親まなびおでかけ講座については、受講者層の拡大につなげるため、大学との連携や出前講座としての周知等に努めました。 見守り活動については、子ども安全見守り隊の登録も増加し、各校区で着実に実施していただきました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		放課後子ども教室延べ実施日数	日	↗	2,811	2,664	3,012(R1)
学童保育待機児童数	人	↘	18	16	0(R1)		
家庭教育関連事業の参加者数	人	→	5,021	4,537	5,000(R1)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-5	青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	全ての青少年がさまざまな地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	教育総務部	部 長	乾 克文
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課	こども政策課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	2-5-1	★青少年健全育成の推進		
		2-5-2	青少年の体験活動の充実		
		2-5-3	若者の自立支援		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由（H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等）			H30年度末現在の施策の主な課題		
2	これまで青少年問題協議会が策定した青少年健全育成運動重点目標は、毎年策定され、直近の青少年問題は反映しやすいが、地域への浸透や活用が課題となっていたため、平成30年度に重点目標のサイクルを概ね3年とし、さらに重点目標を意識した地域行事とするため自己点検アンケートを実施しました。また、団体の活動意欲の向上や行事の見直しなどの工夫を積極的に行うことを促すために、効果を生み出した行事を好事例として表彰する「ほっとけん！アワード」を創設するとともに、青少年を取り巻く社会環境の変化に応じた青少年育成活動となるよう検討を行いました。 青少年の体験活動の機会を増やすことが課題であった上中条青少年センター主催事業については、新たに実施した青少年イベント等により中学生以上の参加者が増加しました。青少年野外活動センターでは、新たな主催キャンプの実施等、体験プログラム内容の充実を行いました。平成30年度の相次ぐ自然災害により利用人数は大幅に減少しましたが、青少年を中心に幅広い年齢層へ様々な体験活動の機会を提供することが出来ました。 会員の減少による休止等で加入率の低下が課題であるこども会活動は、新興住宅地での活動紹介等により新たにこども会を結成した地域や合併により活動を継続したこども会もありました。また、今後のこども会活動の参考とするためのアンケート結果の分析を行いました。 平成27年度に子ども・若者の早期支援・早期困難解消を目指し設置した子ども・若者支援地域協議会では、関係機関によるケース会議や講習会等を毎年開催するとともに、平成29年度に年齢と相談内容に応じて相談先が把握できるよう「相談機関への道しるべ」を作成しました。また、平成30年度に中学校卒業後や就労に向けての支援方策を検討・試行しました。子ども・若者自立支援センターは、平成29年度に相談等の利用助成対象を拡大しました。さらに、社会経験や交流・相談ができる居場所「ユースプラザ」を平成30年度に市内4か所に開設しました。		課題①	大人が子どもに声を掛けられるような顔の見える関係をつくるため、地域活動への青少年の参加を促す必要があります。	
			課題②	実施内容や実施時期によって定員に満たない事業があることから、青少年を取り巻く環境や興味・関心に応じた体験プログラムを企画し提供する必要があります。	
			課題③	こども会加入率回復のため、こども会育成連絡協議会等との情報共有を行い、実情を把握するとともに、魅力あるこども会の在り方を研究する必要があります。	
			課題④	子ども・若者世代を対象としていない福祉サービス提供者や支援者等への事業周知が必要です。	
			課題⑤	生きづらさを抱える子ども・若者のニーズの把握のための取り組みが必要です。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施策	2-5	青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する		

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取 組	2-5-1	★青少年健全育成の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	各地域で青少年健全育成の行事等が活発に実施されることにより、地域の子どもは地域で見守り、育てるという市民意識が醸成されています。					
5	該当する 重点プラン (前期基本計画より)	③安全・安心に暮らせるまちをつくる	内 容	「地域の子どもは地域で見守り、育てる」活動を行うための支援			
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価	評価理由（H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等）				
		b	青少年問題協議会が策定した青少年健全育成運動重点目標を継続し、地域で実施されている青少年育成事業において、重点目標を意識した取り組みとするため、各行事の計画時と実施後に自己点検アンケートに協力をいただきました。また、団体の活動意欲の向上や行事の見直しなどの工夫を積極的に行うことを促すために、効果を生み出した行事を好事例として表彰する「ほっとけん！アワード」を創設するとともに、青少年を取り巻く社会環境の変化に応じた青少年育成活動となるよう検討を行いました。				
		a：順調に進行 b：おおむね順調に進行 c：進行にやや遅れ d：進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目 標 値（年度）
					H29年度	H30年度	
		茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	↗	84	85	87（R1）

1	取 組	2-5-2	青少年の体験活動の充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課	こども政策課					
4	目 標 (前期基本計画より)	青少年が活動拠点である上中条青少年センター及び青少年野外活動センターなどでの体験活動を通して自尊心や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	上中条青少年センター主催事業については、新たに実施した青少年イベントや子どもセミナーの新プログラム等により、前年度に比べ参加者が約400人増加しました。青少年野外活動センターでは、施設や事業の周知活動を行い利用者層の拡大を図りましたが、相次ぐ自然災害により延べ48日間の施設閉鎖をしたことから利用人数は大幅に低下しました。(閉鎖がなければ概ね例年どりの利用者数の見込みであった。) 平成30年7月に市内4か所でユースプラザを開設し、市内中学校・高校、SSW、CSW、主任児童委員、民生委員・児童委員、地域の各種団体、各種関係事業担当等へ周知を行った結果、生きづらさを抱える子ども・若者や、自学自習の場が必要な中高生等が利用につながりました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	こども会については、こども会員の減少により、合併・活動休止・解散したこども会があったため、加入率は低下しましたが、平成30年度に新規結成されたところや、こども会の合併で対象エリアが広がったことにより、こども会員が増えたところもあります。このような状況を踏まえ、今後のこども会活動について、検討を行うため、平成29年度に実施したアンケートの集約・分析を行いました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		上中条青少年センター主催事業参加者数	人	↗	1,369	1,802	2,300(R1)
青少年野外活動センター年間利用人数	人	↗	11,216	9,015	12,000(R1)		
こども会加入率	%	→	40.5	37.6	45(R1)		

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち				
2	施 策	2-5	青少年が心豊かにたくましく成長できるよう取組を推進する				
★:重点プラン該当取組							
1	取 組	2-5-3	若者の自立支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井 芳樹
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	若者とその保護者が気軽に相談できる窓口が整備されています。 それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。					
5	該当する 重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価	評価理由(H30年度 of 取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	平成30年7月にユースプラザを市内4か所に開設したことにより、子ども・若者自立支援センターの個別専門支援だけでなく、より多くの支援者と関わりをもつ支援が可能となりました。 子ども・若者支援地域協議会では、中学校卒業後の支援方策を教育部会で、就労準備支援や就労体験事業との連携支援方策を就労部会で検討・試行したほか、要保護児童対策地域協議会との更なる連携を推進するため、令和元年度から相互の代表者会議へ参加できるよう各協議会構成機関から承諾を得ました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		スモールステップの段階(自立度)アップ率《改善率》	%	↗	93	94	95(R1)

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	理 事	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題	
	生涯学習推進体制の推進については、きらめき講座等を開催し、本市と包括連携協定を締結する市内大学との連携講座の拡充により、大学連携講座の受講者数は大幅に増加しました。また、生涯学習で培ったスキルを社会に還元する仕組み作りとして、「出番づくり」相談会を実施したことを通じて、一定の成果が上がっています。 生涯学習についての普及啓発の推進については、各課の講座等も含めた生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体及びHPにて、生涯学習情報を発信しました。また出前講座の受講者数は年々増加し、平成29年度は減少したものの、市民ニーズに対応した講座内容にしたことから、平成30年度大幅に増加し、一定の成果が上がっています。 成人教育の推進については、市民が自主的・主体的な学習活動や社会参加を支援するために、社会教育関係団体等リーダー研修会等の様々な講座を開催し、毎年度事業見直しを行いました。 公民館活動の推進については、公民館講座受講人数及び講座等開講数は、ピーク時から比較すると、年々減少傾向にはありますが、地域住民のニーズに対応した講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。 図書館サービスの充実については、継続して、資料・情報の収集・整理・保存・提供に努めるとともに、より多くの市民が本との出会う機会を創出するため、「ブックラベル」や「図書館を使いこなそう講座」を開催しました。また、子どもの読書活動推進については、各学校と情報交換を行うなど子どもが読書に親しむ環境づくりに努め、「茨木市 図書館を使った調べる学習コンクール」を学校と連携して開催し、調べ学習を通して多様な資料の活用を図る取組を行いました。 以上から、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	更なる生涯学習施策の推進に向けて、市民アンケート調査の結果等に基づいた(仮称)生涯学習推進計画の策定、また当該計画の推進を行う必要があります。
			課題②	更なる生涯学習の普及啓発の推進のため、ホームページやSNS等を活用した情報発信が必要です。
			課題③	成人教育の推進については、社会の要請を踏まえた講座を実施するとともに、より多くの市民が参加できるよう事業周知方法を検討する必要があります。
			課題④	公民館活動の推進に向けて、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みについて、更なる情報提供・共有に努め、32公民館の取組を支援する必要があります。
			課題⑤	更なる図書館サービスの充実については、関係機関との連携し新たな事業展開、また情報化時代におけるICTの活用等を検討する必要があります。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち					
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する					
3 施策内の取組の評価 ★:重点プラン該当取組								
1	取 組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備					
2	主担当課	部名	市民文化部		課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課							
4	目 標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	本市の生涯学習活動の実態及びニーズを把握するために、市民ニーズ調査を実施しました。また、包括連携協定を締結している市内4大学と新たに近隣大学との連携事業を拡充し、参加者数が大幅に増加し、企業との連携事業においても「社会人として身につけたいスキル講座」を拡充するなど、生涯学習の機会を提供することができました。 更には、昨年度に引き続き、個人がスキルアップしたものを地域など社会に還元する『出番づくり』相談会を実施し、学習成果を生かす仕組みづくりを進めています。 天文観覧室では、大阪北部地震や台風の影響で投影機や機器類を含む施設全体に甚大な被害があり、集客率の大きいシーズンに閉館を余儀なくされたため入場者数が大幅に減少しました。					
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度	
		大学連携講座受講者数		人	↗	903	2,082	1,000(R1)
		天文観覧室(プラネタリウム)利用者数		人	↗	12,898	8,429	14,500(R1)

1	取 組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部		課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課							
4	目 標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	昨年度に引き続き、各課の講座等も含めた生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体とホームページでも発信し、また、ホームページのリニューアル等、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。 そして、出前講座の受講者数が、市民ニーズに合った講座の実施により、前年度と比較し大幅に増加するなど、市政情報が提供できました。					
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度	
		出前講座受講者数		人	↗	70,916	94,140	80,000(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取 組	3-1-3	成人教育の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会教育関係団体等リーダー研修会や青年による人権啓発事業について、地域社会との連帯を図り、社会の要請を踏まえた講座内容の選定、開催時期の再検討等により、効果的な事業実施に努めました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		成人教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,002	1,023	1,040(R1)

1	取 組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	公民館講座受講人数、講座等開講数は減少しましたが、地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。 また、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みとして、子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせ、地域の歴史などの実施が増加するとともに、中央公民館として、取り組みの目的を説明し、事例紹介するなど、更なる情報共有を図ることが出来ました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,533	2,459	2,550 (R1)
		小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	438	424	420 (R1)
		講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	講座等	↗	49	53	50 (R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取 組	3-1-5	図書館サービスの充実					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子	
3	関係課							
4	目 標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価		評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b		6月の大阪北部地震の影響により、一時期休館し、貸出点数が減少しましたが、継続して、資料・情報の収集・整理・保存・提供に努めました。 また、本を介したイベント「ブックラベル」や、「図書館を使いこなそう講座」の開催などで、市民が本と出合う機会を創出し、読書推進、図書館の利用促進を図りました。 子どもの読書活動推進については、各学校と情報交換を行うなど子どもが読書に親しむ環境づくりに努めるとともに、「茨木市 図書館を使った調べる学習コンクール」を学校と連携して開催し、調べ学習を通して多様な資料の活用を図る取組を行いました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						H29年度	H30年度	
		資料貸出点数		点	↗	3,843,809	3,653,098	3,850,000 (R1)
		蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)		冊	→	1,255,632	1,269,845	1,250,000 (R1)

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	理 事	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題	
	市民との協働による文化のまちづくりを進めるため、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」において、多様な主体で構成する実行委員会に加えて、民間事業所との連携により事業を推進しました。 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、さまざまなイベントを開催し、多くの市民が文化芸術に触れることができました。JR総持寺駅アートプロジェクトでは、現代アートを身近に感じてもらう機会を提供しました。市民会館跡地エリア活用については、ヒアリングや社会実験などを通して得られた意見に基づき、施設機能や事業の進め方等について取りまとめた基本計画を策定しました。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、未就学児や小学生対象の芸術文化講座や放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施し、多くの児童が参加しました。 歴史遺産の保存・継承については、府や市の有形文化財等に指定されたキリシタン遺物の高精度複製品を製作し、企画展やシンポジウムをとおして市民に公開しました。歴史的建造物(寺社)調査は概ね本調査を終え、報告書の作成を進めています。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、優品の速報展を開催しました。 郷土への愛着心とブランド形成として、川端康成文学館では生誕月記念企画展の開催やツイッターによる広報を強化し、年間入場者が増加しました。また、川端康成青春文学賞を創設し、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。以上から、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成には継続した取り組みが必要です。
			課題②	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。
			課題③	若い世代が文化芸術に触れることができる環境のさらなる充実が必要です。
			課題④	文化財所有者には文化財保護の取組に対する理解を、歴史的建造物調査では所有者や地元の方々に、事業への理解・協力をしていただけるよう働きかける必要があります。史跡郡山宿本陣保存修理は、所有者と調整を図りながら進める必要があります。
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち				
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する				
3 施策内の取組の評価 ★:重点プラン該当取組							
1	取組	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内容			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、市内3大学の学識経験者や観光協会などまちづくりを担う団体から推薦された方で実行委員会を構成し、プロジェクトの内容やイベントについて、様々な意見・アドバイスを受け、事業を推進しました。 facebook、TwitterなどのSNSを活用し、文化振興事業を積極的に投稿したことにより、昨年度を上回る好意的な評価を受けるなど、市内外に向けたPRに努めました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	86	92	100(R1)
		SNS記事の好意的な評価数	件	↗	2,635	2,641	3,000(R1)
		提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	6	6	8(R1)
1	取組	3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)		内容	イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり		
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 市立ギャラリーには32,297人の入場が、また、文化振興イベントには災害等の要因により昨年度を下回ったものの15,702人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。 「まちなかアートツアー」をJR総持寺駅アートプロジェクトやスポーツ推進課と連携して実施することで芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。 市民会館跡地エリア活用については、ヒアリングや社会実験などを通して得られた意見に基づき、施設機能や事業の進め方等について取りまとめた基本計画を策定しました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	30,990	32,297	39,000(R1)
		文化振興イベント参加者数	人	↗	17,066	15,702	21,000(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち					
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する					
★:重点プラン該当取組								
1	取 組	3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一	
3	関係課							
4	目 標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。						
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		a	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、小学生対象の芸術文化講座について、対象を未就学児と保護者にも拡大するほか、放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施するなど、若い世代が芸術文化に触れる場をつくりました。さらに、川端康成文学館俳句コンクールでは、1,463件の学生応募がありました。					
								a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)	
					H29年度	H30年度		
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	902	1,463	1,200(R1)	
		こども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	73	118	75(R1)	

1	取 組	3-3-4	★歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	キリシタン遺物「キリスト磔刑像」の高精度複製品を製作しました。また、キリシタン遺物史料館企画展として千提寺菱ヶ谷遺跡等をテーマに開催しシンポジウムを実施しました。本市の歴史的建造物(寺社)調査を実施し、神社については調査が完了し、寺院についても概ね調査を終え、報告書の作成も進めています。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、優品の速報展を開催しました。大阪北部地震等で破損した史跡郡山宿本陣の保存修理に向け取り組みました。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,256	3,789	2,500(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち				
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する				
★:重点プラン該当取組							
1	取 組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目 標 (前期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木市らしさ”を大切にす る気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されて います。					
5	該当する 重点プラン (前期基本計画より)	該当なし		内 容			
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	川端康成文学館では生誕月記念企画展を実施するなど、茨木市における文化の特色として 川端康成ゆかりの地であることを周知しました。企画展の内容を充実させるとともに、若年層への 広報をより強化したことなどから、年間入場者が平成29年度の9,768人から10,388人に増加しま した。一方で、猛暑の影響等により、夏休み企画展の入場者は、平成29年度の1,588人から 1,191人に減少しました。 また、川端康成青春文学賞を創設し、短編小説を全国から募集した結果、1,341篇の応募があ り、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	9,768	10,388	10,000(R1)
		川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,588	1,191	1,800(R1)